

港区立青山中学校
令和5年度 授業改善推進プラン

国語	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力調査では、「情報の扱い方」の設問ができていなかった。 ・全国学力調査の結果、並びに定期考査等で、文法問題など、知識・理解の定着度が低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットに打ち込んだ情報について、お互いに質問したり回答したりする学習で、情報の扱い方について学習する。 ・基本的な知識・理解の問題については、お互いに教えあう学習をして定着させる。

社会	育成を目指す資質・能力	学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・社会的な見方・考え方を働かせ、課題を迫及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ちグローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年は、地形や気候、そこでの人々の生活の様子などに興味を持ち、追求しようとする生徒が多い。一方で基礎の定着や自然条件や社会条件を関連づけて理解することが課題である。 ・2学年は、基礎的な知識・技能が徐々に身についてきている一方で、社会的事象の共通点や相違点を見出し、自身の考えを説明することが苦手な生徒が多い。 ・3 学年は、基礎的な知識・技能が身についている生徒が多く、地理・歴史・公民を横断的に繋げて思考することができるようになっていっている。その反面、考え方を比較・応用することが苦手であり、話し合いの場面で意見が広がらないことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・反復学習を取り入れ、基礎的な知識・技能を養う。 ・单元ごとのまとまりを通した「問」を立て、一つの課題を迫及し各自が見解をまとめ、意見交換を行う。 ・タブレットを活用した話し合い活動を通して、社会的な事象の原因や結果を分析できるようにする。 ・社会的な事象の横断的なつながりを意識させることで社会の仕組みを理解し、課題意識を持てるようにする。

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学力状況調査、学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
数学	<p>・数学的な基礎的な概念や原理・法則の理解とともに数学的に表現・処理する技能を身につけ、数学的な思考力・判断力・表現力を養い、数学的活動の楽しさや数学のよさに気付いて数学を生活や学習に生かしたり、問題解決の過程を振り返ったりして検討しようとする態度を養う。</p>	<p>・全国学力・学力状況調査などの結果から、生徒は主体的に学ぶ必要性を認識しているものの、主として用語の意味やそれを用いた説明の定着不足、違う表現についての判断力不足が課題である。定期考査の結果からも思考力・判断力・表現力の項目が低く、主体的に取り組む姿勢を育み、意欲的に取り組ませることが課題である。</p>	<p>・習熟度に応じて教材や授業形態を使い分け、標準は基本の徹底を、発展はより思考の充実を図る。</p> <p>・振り返りテストの実施とその反省を蓄積する。</p> <p>・課題について考え、生徒同士で学び合う時間を單元ごとに設け、学習した用語を多く用いて説明し、まとめる指導を徹底する。</p> <p>・デジタル教科書やタブレットを活用し、個別最適化を推進する。</p>

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	<p>・自然事象に対する興味・関心や理解度を高め、観察実験を通して、科学的に探究することができる力を養う。</p>	<p>・自然事象を定量的および定性的にとらえる、思考力・判断力。</p> <p>・自然事象に対して、疑問に思ったことについて、意見を共有し、合意形成をはかるといった表現力が課題である。</p>	<p>・ICT 端末の有効活用および、生徒一人一人の学習到達度に合わせた個別最適化。</p> <p>・デジタルコンテンツや單元テストを活用した基礎学力の定着。</p> <p>・生徒一人一人の興味・関心に応じた探究的な学習の実施。</p>

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	<p>・曲想と構造などとの関わり及び多様性について理解し、表現を工夫するための技能を身につける。</p> <p>・表現を創意工夫し、良さを味わって聴く。</p> <p>・主体的・協働的に取り組み、音楽文化に親しみ、音楽によって生活を豊かにしていく態度を養う。</p>	<p>・思考・判断・表現について、知識を活かし、自身がどのように表現したいかを考え、それを表現することが大切であると更に伝える必要がある。定期考査やその学習に関して、単なる暗記ではなく、知識をどのように活かすか、学びを活動にいかすようにさせることが課題である。</p>	<p>・技能の向上を目指し、内容理解を深める学習活動を行う。指示を与えるだけでなく、考え、協働する学習活動を行わせる。</p> <p>・音楽に対する評価や創意工夫について、知覚・感受したことを言語化させる。その際、自己の意見をもち他者の意見を聴く活動を取り入れる。新たな気づきから音楽の多様性を学ばせる。</p> <p>・合唱など、協力し創り上げる体験を通して、協働する喜びを感じさせる。</p>

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
美術	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞を通じて作品の豊かな表現を知り芸術作品だけではなく、友人や他学年の生徒作品を尊重できる力を身につける。 多様な表現・技術の理解から自分の考えを表現に変える力をつけていく。 生活の中の美術の存在に気づきゆたかな日常を作り出す力を育てていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 1学年-基礎の定着、初歩的な技能の理解の個人差が多く定着がまだみられない 2学年-基礎的な知識・技能が徐々に身につけているものの鑑賞や表現を言語化する能力がまだ弱い。 3 学年-基礎的な知識・技能が身につけている生徒が多くなっている言語化する能力も付いてきているが他者を認める力がまだ弱く表現の応用や抽象化がまだ広がっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な道具の扱い等を再確認していく アイディアから作品制作に至る過程に小さなワーク(目標)を設定し課題をクリアしていくことで完成に近づいていくプロセスを理解させていく。 美術館の作品・友人の作品の鑑賞から作者の意図と鑑賞者の着眼点の違いもあってよいことを感じさせる機会をふやす。 各時間のゴールを明確にし、板書等で共有し見通しをもって課題に取り組む姿勢を育む。

	育成を目指す資質・能力	新体力テスト、学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動、体力の必要性について理解し、基本的な技能を身につける。 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養い、最善を尽くして運動する態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の必要性は理解しているものの、運動の種類やそれに伴って高まる体力についての知識が不足している。 自己の課題解決に向けて、練習の目的や技能のポイントを理解し、意欲的に取り組ませることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健や実技の授業を通して、運動の大切さを理解した上で、運動習慣やスポーツテストの結果を見直し、改善できるよう運動計画・目標を設定する。 各単元において、学習カードや実演をもとに、技能のポイントや課題解決に向けての練習方法を理解した上で、グループ活動では、自分の意見や考えを伝えるたりできるようにする。 自分の能力に合った目標を設定し、達成感を味わえるようにする。

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につける。 ・生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し表現するなど、課題を解決する力を養う。 ・よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・理解を上げるために、ポイントをおさえた解説・指導にする。 ・技能については、机間巡視で実演を増やし見せて理解させる。 ・製作品の進度が遅れている生徒に目を向け課題解決にあたりアドバイスをしていく。 ・製作品の進度が極端に遅れている生徒には、生徒に合わせた課題に設定にする。 ・製作品が完成しないときは、放課後などの時間に製作する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な理解を図るために、教科書、ワーク、期末考査を使い基礎的な理解を習得する。作品製作を通して技能を身につける。 ・生活や社会の中から技術や家庭に関わる問題を見いだして課題を設定する。 ・課題を解決するために解決策を構想する。 ・構想した自分の考えを、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化する。 ・実践したことをクラスメイトに聞き、他者の考えを聞くことで評価・改善につなげる。 ・実践を評価・改善し、考察したことを表現する。 ・製作品の製作を通して、実践的な態度を養う。

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
外国語(英語・国際)	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きを身に付けたり、背景にある文化への理解を深めたりして主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で、友達と話したり、意見や考えを伝えあったりする協同的な活動に対しては楽しいと感じている。 ・分からないことや苦手なことがあったときに、難しくてもあきらめずに取り組む態度やどうやったらうまくいくのかを主体的に考えることが課題である。 ・家庭での学習を全くしていない、学習の方法が分からない生徒がいるので、学習方法のヒントを与えながらも、主体的に考えられるように導きたい。 ・英語という言葉が、将来の仕事や生活に役立つことについて考えられるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を使って自分の考えを伝えたり、相手の考えを知ったりするコミュニケーション活動を積極的に取り入れていく。 ・NTの先生とのスピーキングテストや音読テストを通して、英語を使うことに慣れ、意欲的に使おうとする態度を身に付ける。自分が表現したことがうまく伝わらなかったときに、別の方法で伝えようとしていたり、どうしたら伝わるのかを自ら考えて行動したりする力をつけていく。 ・既習の文法事項は、繰り返し学習することにより、使い方を理解し表現できる力をつけていく。 ・英語を使った活動や、英会話の活動では、相手を配慮して適切なコミュニケーションを行うことができるか。

道徳	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・道徳的価値を自分事として理解し、多面的・多角的に深く考えたり、話し合ったりし、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。	・授業で扱う教材の目標や内容項目を理解し、主体的な学習を促すことができるか。話し合い場を設けて、多様な考えを促し、自らの考えを深めることができるか。	・生徒の学習意欲を引き出し、主体的に考え、他者との多様な考えがあること知る話し合い活動を取り入れる。 ・ICT を活用し、理解を深める動画を見せたり、互いの意見を共有したりする。 ・発問や振り返りの時間により、自分の考えを整理し、今後活かしていくことにつなげていく。

特別活動	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることを理解し、行動の仕方を身につける。 ・集団生活や社会における生活及び人間関係をよりよく形成し、自己実現を図ろうとする態度を養う。	・行事によっては生徒数の割に、係の仕事が多く、一人の生徒が何役も取り組んでいることがある。リーダーを育て、なるべく多くの生徒に仕事を割り当てられるようにしていく。 ・生徒が主体的に取り組める場や人間関係を形成できる場がまだまだ足りないため、意図的に設ける必要がある。	・学級活動では、班や係、当番活動の中で自己の役割を明確にし、リーダーだけでなく一人一人が責任をもち取り組む。 ・生徒会活動では、生徒会の一員という意識をもち中央委員会で話し合ったことなどを朝礼や学級で伝えるようにする。 ・学校行事では生徒主体に運営ができるよう実行委員を中心に計画を立てていく。

総合的な学習の時間	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	・様々な物事に対してよりよく問題を解決するための知識・技能を身につけ、探究学習の良さを理解する。 ・身の回りの生活の中から“問い”を見だし課題設定する力を身につける。 ・情報を集め整理・分析し、まとめ・表現する力を身につける。 ・探求的な学習に主体的、協動的に取り組み、互いの良さを生かしながら社会に参画しようとする態度を養う。	学年ごとのテーマである 1 年:「いろいろな生き方を知ろう」、2 年:「多様な生き方に学ぼう」、3 年:「自分の生き方を考えよう」に対して、テーマや内容項目を理解して、生徒の主体的な学習を促すことができるか。グループワークなどの話し合いの場面を通して、お互いの考えを共有し、多様な考えを促し、自らの考えを深めることができるか。	・「課題設定」→「情報収集」→「整理・分析」→「まとめ・表現」というプロセスを基本とする。 ・実際に学習活動や扱う学習対象と発揮される資質・能力を具体的に想定して、「探究学習」の材料を集めるようにする。 ・第1学年は職業講話を通して進路学習を行う。探求プログラム「ソーシャルチェンジ」を通して社会課題学習を行う。第2学年は職場体験の事前事後学習を通してキャリア教育を行う。探求プログラム「インターン」を通して、進路学習を行う。第3学年は修学旅行を通して事前事後学習を行い進路学習・キャリア教育・ボランティア活動を行う。探求プログラム「ザ・ビジョン」を通して、進路学習を行う。